



## 日本音楽教育学会 ニュースレター

### 目 次

会長からのメッセージ .....	2
編集委員会報告 .....	4
『音楽教育実践ジャーナル』特集・原稿募集 .....	5
常任理事会・理事会報告 .....	6
夏期ワークショップのお知らせ .....	10
第 35 回全国大会のお知らせ .....	10
ISME 50 周年記念大会について .....	11
平成 15 年度修士論文題目 .....	12
住所・所属変更及び新入会員住所 .....	20
編集後記 .....	25

## 選挙に関する会則の問題：ISME の場合と日本音楽教育学会

日本音楽教育学会会長 村尾忠廣

### 【ISME と本学会における会長の直接選挙】

ISME においてもようやく全会員による会長・理事の直接選挙が始まりました。電子投票による初めての試みです。すでに、このニュースレターでもご報告してきましたように ISME の改革，方向をめぐって激しい対立があり，それが選挙，人事問題にも発展してぎくしゃくしていました。インターネットによって電子投票が可能になったということもありますが，直接選挙の導入の背景には，一部少数の人による政治的影響を少なくし，より民主的な選挙をしたいということがありました。

ところが，誰もが自由に立候補，推薦できるにも関わらず，蓋を開けてみれば推薦・立候補者（L. Hentschek, ブラジル）が一人だけでした。全会員による直接選挙でなかった時（国の代表権者 総会参会者のみによる投票）には，複数の候補者が激しく競ってきたのですから，これは変な話です。当然，理事の間から問題視する声がおこり，理事が複数の候補をたてるように極力努力しようということになりました。が，結局誰も対立候補 (opposed candidates) を立てることができなかつたのです。無投票当選にするか，一人を選挙するか，信任投票をするか，選挙規約には何も書いてありませんので，結局，一人を選挙することになりました。このニュースレターが届く頃は，

事実上当選の Hentschek に対する記名投票がまだおこなわれている最中でしょう。

このようなことを書きましたのは，まったく同じ問題が日本音楽教育学会でも起こっているからであります。

### 【日本音楽教育学会における会員からの問題提起】

前回の日本音楽教育学会ニュースレター第 15 号において選挙の公示があった後，一会員から次のような内容の問題提起がありました。

1) もし会長候補者が一人であった場合，記名投票ではなく，ア) 無投票当選とするか，イ) 信任投票とすべきではないか，ウ) 一人でも記名投票，というのでは，極端な場合 1 票でも当選であり，信任したくない，という会員の意志を表明できないではないか。

この指摘を受けて信任投票案を常任理事会，理事会で議題として提起し，いろいろ議論をいたしました。（選挙の実施に関わることを理事会で扱うことには問題があることは重々承知しておりますが，選挙規定に関わる問題でしたので，取り上げました。）が，結局，現行の選挙規定に基づく限り，ウ) 一人でも記名にならざるをえない，ということになりました。記名せず，白票を投ずるという選択肢によって信任投票的な

意味を持たせることが出来るのではないか、という判断です。もちろん、本来の信任投票では過半数で当選か、2/3は必要なのか、といった規定が新たに必要になりますから、少なくとも今回の選挙には間にあいません。明らかに選挙規定の不備です。そもそも、立候補、推薦者がゼロの場合はどうするか、ということについても述べられていませんから、選挙に関する会則を改正する必要があります。しかし、2度続けて候補が一人ということになれば、立候補、推薦による直接選挙自体を見直す必要があるでしょう。

今回の選挙でも推薦による候補が一人だけでした。非常に残念です。現在の直接選挙を導入した時、会長になろうとする人が複数立候補し、公約、マニフェストを掲げ、会員の判断を仰ぐ、ということを考えておりました。私自信は立候補してマニフェストを掲げておりましたから、退任の時には自己評価をするつもりでいます。しかし、今思うと日本の学会にこういう制度を持ち込むのは時期尚早だったのかもしれない。2)上記の会員からは、選挙後におこなわれる投票結果に関して、「当選者、次点者の得票数も公表すべきではないか」という指摘がありました。

理事会でも、当初はほとんどの委員が公表に踏み切ってもいいという意見でした。しかし、選挙規定をよく読むとこれも難しいようです。

古参の理事が、現行の選挙規定をつくる時のことをよく覚えておりました。たしかに、現行の規定では、公表する内容が具体的に書かれていますが、当選者の得票数については述べられていません。これは、某会員が総会かどこかで当選者の得票数を公開せよ、と迫ったことがあり、これに対し、

理事会で検討して、公表しない、という意味で規定の条文を作ったもののようです。公表すると選挙無効とさえ言えるような数の得票数がでてしまい、新たな混乱を招きかねない、ということのようでした。しかし、これは、投票率の低さというより、定員に対する記名人数の不都合から生じてきたことです。今回の選挙では記名数を改正していますから、公表しても不都合はない、と考えていたのですが。これは、私の判断の誤りで、選挙結果の公表に関する会則を改正する必要がありました。ですから、改正案が総会で承認されるまでは現行制度に従わざるをえないのです。(公表すること自体に反対する理事はおりませんでした。)

理事選挙の規定がこのように実に細々しているのに対し、会長選挙は実にシンプルです。立候補者が一人だったら、また、一人もいない場合はどうするか、などということに対する規定はありません。細々したことを規定すると規定に縛られて不都合が生じる、という意見に従ったように思います。状況に応じて柔軟に判断すればよい、と考えたのですが、選挙というような問題に関してはやはり細かく、いろいろな場合を想定して規定しておくべきだったかもしれません。いずれにしても、次回の選挙までに立候補・推薦による直接選挙の制度自体を含めた抜本的な見直しが必要でしょう。おそらく、次期会長のもとであらたな学会運営検討委員会が発足することとされます。よい案など思いつかれましたら、このニュースレターへ投稿していただきたいと思います。採否はともかく、会員の声として次期委員会、理事会へ反映してゆくことができるからです。

## 編集委員会報告

編集委員長 安田 寛

『音楽教育実践ジャーナル』も2号まで無事に発行できて委員会は一息つきたいところですが、引き続き3号、4号の編集が控えています。

『音楽教育実践ジャーナル』の編集については、実際にはじめてみますと細部の段取りが決まっていなかったりで、会員の皆様、特に投稿して下さった会員の皆様にはご迷惑をおかけしている点があります。委員会では早急に問題点を検討し、できるだけ編集過程が皆様にとって分かりやすいものになるよう改善していく所存です。

さて、以下4点ほどお願いとお知らせです。

(1) 『音楽教育実践ジャーナル』の編集に関して、皆様をお願いしたいことがあります。

投稿していただいた論文などに、著者本人が他誌ですでに公表したものと酷似したものが見受けられることがあります。学会誌に掲載する論文などは「原著」であることが求められます。

この問題に関しては編集委員会でも出来るだけチェックをしますが、完全を期すことは難しいという事情もありますので、学会誌への投稿のマナーとして、投稿する論文は「他誌への未投稿・未発表の原著論文（または研究報告）」であることを著者ご自身で銘記していただきたいと思っております。

(2) メールによる編集会議についてお知

らせします。

投稿論文が掲載されるまで時間がかかりすぎるのを何とかして欲しい、という会員からの強い要望につきましては、その原因の一つとなっている投稿論文を査読者に回すまでの過程を短縮するため、これまでも行ってきましたメールによる編集会議を拡大することにしました。すなわち、投稿論文があった際にはそれを編集委員に事務局から送付後、これまで編集会議で行っていた「担当委員と査読者の決定」までをメールで行うことにしました。

(3) 大会特集号の編集変更についてお知らせします。

次回大会からこれまでのプロジェクト研究は、「共同企画」とプロジェクト研究の2種類になります。「共同企画」は応募の形をとり、ラウンドテーブル、ワークショップなどを内容とし、個人発表と同じ時間帯に時間を延ばして実施するものです。また、プロジェクト研究は、理事会（または開催校）が企画するものになります。

この変更により、次の大会特集号からは、プロジェクト研究のみを掲載し、「共同企画」は個人発表と同じ扱いとして掲載しないことにしました。なお、シンポジウム、基調講演などにつきましては、従来通りで変更はありません。

(4) 注記の形式を変更することについてお知らせします。

『音楽教育学』ではこれまで文末注方式で行ってきましたが、実はこれを脚注方式に変更することが、前々期編集委員会で合意されていたにも関わらず、現在まで文末注方式になっていた、という問題がありました。

そこでこの問題を解決するため、原稿は

これまで通り文末注で受け付け、印刷所の編集作業の段階で脚注に直すことにしました。『音楽教育実践ジャーナル』については、まだ検討中です。

以上、会員諸氏のご理解をたまわりたいと存じます。

---

### 『音楽教育実践ジャーナル』vol. 2 no. 2（通巻4号）特集・原稿募集

『音楽教育実践ジャーナル』通巻4号（2005年3月発行）の特集に向けて原稿を募集いたします。

子ども（学習者）が様々な音楽文化にふれ合う中で、音楽の美しさを享受したり、多様な価値に気づいたり、豊かな感性を磨いたりする鑑賞は、音楽の営みすべてに深くかかわるもので、本来、主体的で創造的な活動です。ところが、学校音楽においては、ともすると表現活動のみが強調され、その基盤ともなる鑑賞活動が十分に深められていない現状が見受けられます。授業時間数の縮減、共通教材の削除、観点別評価の難しさなど、様々な要因がそうした問題状況に拍車をかけているのではないのでしょうか。

そこで『音楽教育実践ジャーナル』通巻4号では、あらためて鑑賞の意義や課題、可能性などを問い直し、これからの鑑賞指導（活動）のあり方を探りたいと考えています。様々な立場や視点からの実践報告、提案、意見などを期待しております。なお、投稿の際には、特集への応募原稿であることを明記してください。

..... 記 .....

- ・特集タイトル：「鑑賞を問い直す」（仮）
- ・原稿締切：2004（平成16）年12月20日（必着）
- ・その他：書式、字数などは『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定をご覧ください。採択された原稿については、1月末日までに編集委員会から投稿者に連絡いたします。

# 平成 16 年度第 1 回常任理事会・第 1 回理事会報告

## 平成 16 年度第 1 回常任理事会

日時：平成 16 年 4 月 24 日（土）13:00-

場所：東京芸術大学音楽教育研究室

## 平成 16 年度第 1 回理事会

日時：平成 16 年 4 月 24 日（土）15:00-

場所：東京芸術大学

出席：村尾・坪能・平井・北山・筒石・奥・加藤・杉江・重嶋・島崎・藤沢・丸山・浅井・丸林・伊藤・今川・小山・山本・中原・野波・吉富・田邊・木村・宮野（会計監事）

欠席：阪井・伊野・南・竹内

### 【報告事項】

議事に先立ち，理事の異動に関する説明がなされた。

- ・北山新事務局長の紹介および挨拶
- ・奥理事の所属地区変更に伴う辞任報告  
選挙管理委員規約により辞任報告がなされたが，村尾会長判断によりオブザーバーとして引き続き参加頂く旨説明された。

#### 1．会務報告（筒石理事）

- ・平成 15 年 10 月 20 日以降の会務報告がなされた。

#### 【平成 15 年】

- 12 月 19 日 『音楽教育学』33-2 号念校
- 26 日 『音楽教育学』33-2 号・  
ニュースレター No.14 発送（東京学芸大学）
- 30 日 拡大事典編集委員会（東京芸術大学）

#### 【平成 16 年】

- 1 月 13 日 拡大事典編集委員会（東京芸術大学）
- 30 日 第 35 回大会対策委員会（武蔵野音楽大学）
- 31 日 第 1 回選挙管理委員会（東京学芸大学）
- 2 月 21 日 第 4 回編集委員会（東京芸術大学）
- 28 日 第 4 回常任理事会（日本女子大学）
- 3 月 10 日 第 2 回選挙管理委員会（東京学芸大学）

15 日 日本学術会議教科教育学研究連絡委員会

16 日 第 1 回大会実行委員会（東京芸術大学）

26 日 『音楽教育実践ジャーナル』Vol.1 No.2，ニュースレター No.15 発送

4 月 22 日 第 35 回大会共同企画公募締め切り

#### 2．第 34 回大会決算報告（中原理事）

- ・盛会であったことについての報告とともにおよび収支説明がなされた。

#### 3．第 35 回大会（武蔵野音楽大学）について（坪能大会実行委員長）

・3 月 16 日第 1 回実行委員会（東京芸術大学）実施

実行委員会には，山本，村尾，常任理事会から加藤，島崎，丸山が参加した。

大会本部として，常任理事会から加藤，島崎，丸山，武蔵野音大から田口，池田の両氏に参加頂いた。

・4 月 22 日：共同企画発表締め切り済み

・6 月 22 日：一般口頭発表締め切り

・30 年前の武蔵野大会における「音楽教育学とはなにか」というテーマを受け，「今，再び音楽教育学とはなにかを考える」という内容で山本文茂氏にシンポジウムを依頼。シンポジストを徳丸吉彦，佐藤学，佐野靖の各氏に依頼，さらに武蔵野音大からの参加者を交渉中。

・プロジェクト研究に関しては，現在二

案が出ており協議中。

4. 36 回大会について（平井理事）
  - ・琉球大学に決定した旨報告があった。
5. 第 8 回音楽教育ゼミナールについて（重嶋理事）
  - ・17 年度 9 月，妙高温泉にて開催予定。
  - ・上越教育大学の小川，新潟大学の伊野，信州大学の斉藤の各氏を中心に，内容も含め計画中。
6. 第 2 回夏期ワークショップについて（坪能副会長）
  - ・8 月 26，27 日，東京学芸大学にて開催予定。
  - ・邦楽演奏家の西瀧昭子氏によるワークショップ，丸山忠璋氏によるセッションなどを依頼中。
7. 各種委員会報告
  - 1) 編集委員会（坪能委員）
    - ・3 月 26 日に『音楽教育実践ジャーナル』第 2 号が発行され，8 月末に第 3 号を発行予定。
    - ・学会誌への掲載に至る投稿が少なく，さらに『音楽教育学』，『ジャーナル』の位置付けに関しても委員会内で議論中。
    - ・本理事会にて，投稿論文と査読の問題に関する意見交換が行われ，あわせて『ジャーナル』が学術刊行物として未認可なため郵送費負担が大きい旨報告された。
  - 2) 30 周年記念事典編集委員会（山本理事）
    - ・山本理事より，事典発刊の紹介と編集委員への謝辞が述べられた。
    - ・会長ならびに理事全員より，山本理事のご尽力に対して感謝の拍手がおくられた。
  - 3) 音楽文献目録委員会（今川委員）
    - ・各学会共，音楽文献目録委員の交代時期であったが，日本音楽教育学会は全員留任とした。
8. 地区例会報告  
15 年度実施報告と 16 年度開催予定（下記）報告がなされた。  
北海道 3 月 27 日（北海道教育大学旭川校）  
今年度は 9 月 6 日に三味線ワー

- クシヨップを予定
- |     |   |
|-----|---|
| 東 北 | 12 月 13 日（弘前大学）<br>今年度は 9 月中旬に岩手大学にて開催予定            |
| 関 東 | 2 月 15 日（東京芸術大学）<br>今年度は未定                          |
| 北 陸 | 2 月 21 日（富山市民芸術センター）<br>今年度は第 1 回を 8 月下旬に信州大学で開催予定  |
| 東 海 | 3 月 27 日に金城大学にて日本音楽学会と共同開催，今年度は 6 月 12 日に三重大学にて開催予定 |
| 近 畿 | 3 月 6 日（滋賀大学付属小学校）<br>今年度は 5 月 15 日に神戸女学院大学にて開催予定   |
| 中 国 | 3 月 27 日（岡山大学）<br>今年度は 2 回開催予定（日程は未定）               |
| 四 国 | 3 月 13 日（聖カタリナ大学）<br>今年度は高知で開催予定（日程は未定）             |
| 九 州 | 3 月 6 日（佐賀大学）<br>今年度は平成 17 年 3 月に長崎大学にて開催予定         |
- \* 北山事務局長より学会 HP 上で地区例会報告を公開しているのので，事務局宛に随時最新情報を送っていただきたい旨の依頼があった。

#### 【協議事項】

1. 平成 15 年度会計決算報告（杉江会計担当理事），監査報告（宮野会計監事）
  - ・資料に基づき決算報告，監査報告が行われ，承認された。
  - ・第 34 回神戸大会の余剰金 30 万円が寄付され，事務局のパソコン購入費に充てられた。
  - ・『音楽教育実践ジャーナル』が学術刊行物として未認可のため，郵送費負担が増大している説明がなされた。
2. 30 周年記念論文集決算報告，30 周年記念事典決算報告（杉江会計担当理事）
  - ・資料に基づき報告が行われた。
  - ・記念事典の赤字補填は，論文集残金，

研究出版基金より補填する旨説明があり承認された。

### 3. 平成 17 年度事業計画及び事業計画【平成 17 年度事業計画(案)】

平成 17 年

- 5月中旬 平成 16 年度会計監査  
平成 17 年度第 1 回編集委員会  
平成 17 年度第 1 回常任理事会  
平成 17 年度第 1 回理事会
- 6月中旬 『音楽教育学』35-1 号発行  
ニュースレターNo.20
- 末日 研究発表(口述)申し込み〆切  
平成 17 年度第 2 回編集委員会
- 7月上旬 第 2 回常任理事会  
研究発表受理通知
- 8月下旬 『音楽教育実践ジャーナル』  
Vol.3.No.1 発行  
ニュースレターNo.21  
第 3 回編集委員会  
第 3 回常任理事会  
第 2 回理事会  
第 36 回大会(琉球大学)
- 9月上旬 第 8 回音楽教育ゼミナール  
会場:未定(妙高)
- 12月中旬 『音楽教育学』35-2 号発行  
ニュースレターNo.22

平成 18 年

- 2月初旬 第 4 回編集委員会  
平成 17 年度第 4 回常任理事会
- 3月末日 『音楽教育実践ジャーナル』  
Vol.3.No.2 発行  
ニュースレターNo.23  
平成 17 年度会計決算

(月日は未定)

### 【平成 16 年度事業計画(参考資料)】

平成 16 年

- 4月24日 15 年度会計監査  
16 年度第 1 回常任理事会  
16 年度第 1 回理事会
- 5月8日 16 年度第 1 回編集委員会  
第 3 回選挙管理委員会
- 6月下旬 『音楽教育学』34 - 1 号発行  
ニュースレターNo.16  
会員名簿 2004 年版発行

22日 研究発表(口述)申し込み〆切

26日 第 2 回常任理事会

研究発表受理通知

8月21日 16 年度第 2 回編集委員会

26-27日 夏期ワークショップ

8月下旬 『音楽教育実践ジャーナル』

Vol.2.No.1 発行

ニュースレターNo.17

第 35 回大会プログラム発送

11月12日 第 3 回常任理事会

第 2 回理事会

第 3 回編集委員会

13 - 14日 第 35 回大会(武蔵野音楽大学)

12月中旬 『音楽教育学』34 - 2 号発行

ニュースレターNo.18

平成 17 年

2月初旬 第 4 回編集委員会

第 4 回常任理事会

3月末日 『音楽教育実践ジャーナル』

Vol.2.No.2 発行

ニュースレターNo.19

平成 16 年度会計決算

### 4. 平成 17 年度予算案(杉江会計担当理事)

・『音楽教育実践ジャーナル』郵送費の負担増,編集者の交通費等の負担軽減目的の予算確保などの説明が資料を基になされた。

・第 35 回大会プログラムに掲載予定

### 5. 会長,役員選挙について(村尾会長)

・会員からの選挙に関する質問状を受けての常任理事会での検討結果説明。

・回答は,選挙管理委員長から行う旨の説明がなされた。

・今回は選挙規約を読み解いた上,公示にしたがって進める。

・規約上の不備に関しては,次回選挙までに学会運営検討委員会で検討する。

### 6. 大会運営の会計報告と赤字補填について(杉江理事)

・現状は本部からの運営費 70 万円と,各大会実行委員会裁量の運営費で計画,運営されている。

・大会実行委員会としては財政的な不安が大きく,引き締め予算で動く結果,大

きな余剰金が出てしまう。(過去、赤字の例は無い)

・現状、運営費 70 万円に対する部分会計報告だけのため、大会全体の会計が把握できず今後の予算作成の参考資料にもならない。

・今後は全体会計として収支決算報告を行うこととし、貸し付け金、赤字補填金制度に関しては学会運営検討委員会での検討課題とする。

## 7. 事典について

・65 冊を既に学会で購入しており、贈呈対象とする。(学会事務局用 1 冊)

・贈呈先は、(財)芸術研究振興財団、(財)ロームミュージックファンデーション、服部幸三編集顧問、山本編集委員長、特別執筆者の福嶋和夫氏。

・執筆段数上位 60 名の会員、および非会員 11 名の執筆者にも贈呈する。

・他の執筆者には、原稿料をお支払する。

・贈呈費用、原稿料は学会基金を充当するものとする。

・ニュースレターで会員に事情説明を行う。

・「学会一括購入による 3 割引販売」の案内ハガキを、学会員に緊急送付する。

・購入希望者をつのり、まとめて購入して事務局から発送する。

・音楽之友社との交渉は会長があたる。

## 8. 新入会員の口述発表の取り扱いについて

・年度末 3 月入金済みの入会希望者は、その年度内の新入会員として理事会で事後承認を行うものとする。

・17 年度から、入会年度には「音楽教育学」への投稿は出来ないが、口述発表は出来るものとする。

## 9. 新入会員及び退会者の承認

・新入会員：下記の 3151 番～3163 番までの 13 名を承認

・申し出退会者：1 団体を含む 17 名を承認

### 【正会員】

3151 野村 泰朗 埼玉大学

3152 武知 優子 神戸女学院大学院生

3153 山田 智美 広島女子大学院生

3154 酒井美恵子 足立区教育委員会

3155 寺園 智美 広島大学院生

3156 榎原 仁美 広島大学院生

3157 立石 裕子 広島大学院生

3158 呉 非 広島大学院生

3159 永岡和香子 仙台幼児保育専門学校

3160 牛頭 真也 上越教育大学院生

3161 廣田 周子 神戸女子短期大学

3162 手島 育 新潟大学院生

3163 小合 恵美 聖和大学院生

### 【申し出退会者】

25 中嶋 恒雄 山梨大学

277 大畑 祥子 日本女子大学

338 服部 郁子 帝京大学

735 早瀬 一洋 昭和音楽大学

1091 工藤 智昭 上越教育大学

1382 古塚真紀子

1439 青山 澄子 高田商業高校

1788 関口 篤子 千葉県立船橋高校

2013 泉谷 正則 広島大学附属小学校

2024 小林 美実 鶴見大学短期大学部

2195 松中 久儀 金沢大学

2273 久保田慶一 東京学芸大学

2361 丸中 新一 七ヶ畑立夕見小学校

2649 山崎 崇伸 熊本大学

2691 中山 弘史 東京学芸大学附属大泉小学校

2797 羽仁 協子 コダイ音楽教育研究会

2825 高橋 陽子 山形大学院生

### 【申し出退会団体会員】

C-2 京都女子大学音楽研究室

・4 月 22 日現在会員数 1596 名

## 10. その他

1) プロジェクト研究について

・企画担当委員会に一任することが承認された。

2) 後援名義について

・全日本電子楽器シンポジウムの後援名義を承認された。

3) 学会誌の表紙デザインについて

・村尾会長から 2 種類提示され、承認された。

\* 次回常任理事会：平成 16 年 6 月 26 日(土)

## 第2回夏期ワークショップ in Tokyo 参加へのご案内

企画：第2回夏期ワークショップ・プロジェクトチーム  
(加藤富美子, 島崎篤子, 坪能由紀子, 丸山忠璋)

本学会では、昨年度に引き続き第2回夏期ワークショップを開催します。本年度は、下記の内容のワークショップを企画しております。音楽教育に関心のある多くの方々に参加していただき、充実した会にしたいと思っております。ふるってご参加ください。

A パフォーマンス・コース 8月26日(木)13時半～16時30分

### 邦楽器で音楽をつくる

- 『さくらさくら』『六段調』『さらし』などの旋律や音型をもとに -  
ワークショップ・リーダー：西潟昭子(三味線)他, 現代邦楽研究所講師

B 授業づくりコース 8月27日(金)10時半～15時

### 心を音で紡ぐ～療法的音楽活動のすすめ

ワークショップ・リーダー：丸山忠璋(横浜国立大学)

- ・場所：東京学芸大学 音楽科ホール
- ・人数：各30～40人程度(先着順)
- ・会費：8月26・27日の両日で5,000円

詳細は同封のチラシをご覧ください。

## 日本音楽教育学会第35回全国大会のお知らせ

2004年11月13日(土), 14日(日)

会場：武蔵野音楽大学(東京都練馬区)

大会実行委員長 坪能由紀子(日本女子大学)

本年度の大会は、第14回大会以来、約20年ぶりで東京の武蔵野音楽大学に会場校をお願いすることになりました。

シンポジウムは山本文茂氏(東京芸術大学)に企画を依頼し、徳丸吉彦氏(放送大学)、佐野靖氏(東京芸術大学)、森田恭子氏(武蔵野音楽大学)をシンポジストをお願いする予定です。基調講演にはイギリスを代表する音楽教育学者であるキース・スワニック氏をお迎えする予定になっています。武蔵野音楽大学では、ミニ・コンサートを企画していただいています。いずれも詳細については次回のニュースレターに掲載することになります。

会員諸氏の意欲的な発表と多数の参加を願っております。

ISME 50 周年記念大会について  
テネリフェ（カナリア諸島，スペイン）  
2004 年 7 月 11～16 日

ISME 理事 村尾忠廣

【50 周年記念世界大会および各種コミッションセミナーについて】

何名かの会員から，ISME 大会についての案内がないが，どうなっているのか，という問い合わせが事務局に届いています。ISME につきましては，大会の発表，申し込みなどの関係で 1 年前にご案内しなければなりませんので，昨年 of ニュースレター 13 号において早々とご案内をさせていただきました。発表したいと思っている人はさっそく Website を検索し，準備を進めてくださったのですが，一般の参会者からすれば，案内があまりに早くおこなわれていて，つい見過ごしてしまわれたようです。前号のニュースレターでもう一度案内を載せるべきだったのかもしれませんが。参加申し込みをされるには手遅れかもしれませんが，再度ここにご案内をさせていただきます。

ISME 会員の皆さまには，すでに ISME ニュースレター，E-mail，website などをつうじてさまざまな情報が届いていると思いますが，ISME は今年，創設 50 周年を迎えます。この記念すべき大会は，欧州

のリゾートとして名高いスペイン，カナリア諸島のテネリフェで，2004 年 7 月 11 日から 16 日まで開催されることになりました。テネリフェはリゾートではありますが，国際会議都市としても名高く，数々の音楽の国際イベントをおこなってきております。大会の詳しい内容につきましては以下の Website をご覧ください。

[http://www.isme2004.com/home\\_english.html](http://www.isme2004.com/home_english.html)

世界大会の前には ISME のコミッションがそれぞれセミナーをスペイン各地で開催いたします。今回は「Early Childhood Music Education Commission」と「Education of the Professional Musician Commission」が合同のセミナーを開催することになっています。各種コミッションについては下記の Website をご覧ください。

<http://www.isme.org/article/archive/2/>

全日音研の主催による ISME ツアーも計画されているようですが，今回は時期が悪く，参会者が少ないと聞いております。詳細は JTB にお問い合わせください。

### 【ISME 入会とメンバー更新のお願い】

日本人の ISME 会員の更新手続きがちっともすすんでいない，という苦情が ISME 事務局より届いております。従来は ISME の国内支部である全日音研がまとめて更新していたのですが，旅行者の企画する ISME ツアーを除いて更新が個人に任せられるようになりました。それでも入会申し込みのファックス用紙が郵送されてきておりましたから，それに記入し，カード番号を書いて返送すれば簡単に更新ができていたと思います。ところが，前回から更新がインターネットでおこなうようになっており，コンピュータや英語に不慣れな人には手続きが煩瑣であったのだと思います。Paypal を使って Online で会費を支払う手続きが面倒であれば，従来のようにファックスで簡単におこなうことができます。ファックス用紙は下記の Website からダウンロード

できますが，ハードコピーを添付いたしましたので，まだ会員でないかたも積極的に会員登録をお願いいたします。（ISME は，学術誌や実践誌を刊行するなどすっかり「学会」としての性格をもつようになりました。）

### 【電子投票のお願い】

ISME 次期会長と理事の選挙が変わり，会員全員の直接選挙ということになりました。基本的に電子投票ということになりますが，郵送，現地での投票も受け付けております。私は今年で任期を終えます。日本からの次期理事には岡山大学の奥忍さんが候補としてノミネイトされています。日本音楽教育学会も ISME グループメンバーとして 1 票を投じますが，個人会員のみなさまの投票もよろしくお願いいたします。

## 平成 15 年度大学修士論文題目

北海道教育大学岩見沢校

石出 和也 環境と動的に関わる音楽創造学習の構想  
～「聴くこと」を意識化する教育活動の意義～

弘前大学

齋藤 香代 郷土芸能と音楽教育  
～青森ねぶた囃子のエスノグラフィーを通して～

伯田 桂子 「こえ」による音声コミュニケーション  
～「うたう」こと，「こえ」の特性・役割～

岩手大学

大場 智果 中学校音楽科における器楽指導のあり方についての一考察  
～音楽教育の多様性に着目して～

大川 敦子 総合的な学習の時間における表現力の育成に関する一考察  
～創造的に取り組む表現活動の実践観察を通じて～

## 山形大学

- 赤塚 睦子 ヨハネス・ブラームスのピアノ作品研究  
～《ピアノ小品集》作品76を中心として～
- 鈴木 綾子 G. ヴェルディのオペラ作品における作曲様式に関する一考察  
～第25作《オテッロ》を中心として～
- 須藤由美子 中学校における日本音楽の指導方法に関する研究  
～箏の指導における生徒の変容の質的記述分析を通して～

## 宇都宮大学

- 落合 範子 歌唱表現技法の分析
- 滝口 紀子 ジュゼッペ・マルトゥッチのピアノ音楽  
～彼の作品とイタリア器楽史における彼の役割～
- 鶴見佐和子 F. ショパンのファンタジー作品  
～《幻想ポロネーズ》を中心に～
- 三田 敬弘 『詩人の恋』における詩と音楽の考察
- 永山 貴子 頭声的発声の意義の考察  
～地声発声との比較を通して～

## 茨城大学

- 中田 陽子 教材化のための歌舞伎研究  
～中学校音楽科への導入の試み～

## 群馬大学

- 福島 美緒 日本の音楽教育における鑑賞能力とその評価の問題に対するアプローチ  
～日米の音楽（鑑賞）教育の比較を考慮して～
- 江泉奈生子 音楽教育における表現能力育成研究  
～中学校での実践研究とその分析を中心として～
- 小黒友里加 外国籍児童を受けもつ学校における音楽教育の現状と課題  
～子どもたちの良さを見つめた教育の実現を目指して～
- 朱 坤 霞 日本と中国の音楽教育の比較研究  
～子どもたちの歌唱表現力を中心として～
- 向井 裕美 音楽教育における創造的能力育成に関する一考察  
～遊びの要素を取り入れた創造的教育学習の工夫～
- 田中悠一郎 学校音楽教育における教育的効果・活用に関する一考察  
～中学校における授業実践分析を中心として～

## 埼玉大学

- 丸山 亨子 総合的学習におけるカリキュラムに関する一考察  
～近代イギリスの教育実践に基づく比較研究～
- 元 戴 恩 初歩ピアノメソッドに関する考察  
～日本と韓国のピアノメソッド比較・分析を通して～

## 千葉大学

- 佐藤 暁 中学校における環境としての音楽の可能性  
～豊かな学校生活環境をつくるために～
- 椎名 尚子 中学校における『聴く力』を育成する学習指導
- 島田健太郎 我が国の音楽科教育における音環境創造に関する考察  
～メディアの歴史的変遷に着目して～
- 徳田 崇 小学校音楽科のカリキュラム編成についての一考察  
～資質・能力育成の立場に立つ教育内容構造化の試み～
- 淵上 緑 中学校における組太鼓の教材化の可能性  
～体全体で音楽を表現する組太鼓の特徴を活かして～

## 東京芸術大学

- 石川眞佐江 保育における歌唱活動の意義と課題  
～歌唱曲の分析と事例の検討を通して～
- 音谷芙美子 音楽教育における異文化接触  
～在日日系ブラジル人の音楽活動の考察を通して～
- 木暮 朋佳 「日本の音楽」教材化試論  
～能楽を例にした伝統性と現代性を考慮した教材化の方法～

## 東京学芸大学

- 渋谷 創平 高等学校芸術科音楽における<現代音楽>の学習指導の方法
- 黒川たまみ 音楽科教育における技能・技術の考察  
～器楽指導を事例として～
- 渡邊 厚美 学校生活における音楽的行動の研究  
～小学校1年生を中心に～
- 清水 泰博 小学校音楽科における音と動きのアプローチ
- 寺田己保子 高等学校音楽科における日本音楽の特質を踏まえた指導法についての研究  
～長唄の授業実践を通して～
- ムン ヘヨン 国際理解教育におけるゲスト・ティーチャーの役割  
～韓国の伝統音楽の授業実践を通して～
- ウ インカ 内モンゴル自治区の音楽科教育における「動き」の課題と可能性  
～「唱遊」領域の成立と変遷をめぐって～
- 永井美保子 アメリカ合衆国における音楽的文化遺産と教育思想  
～ニューイングランドを起点にした文化発祥の系譜と展開の史的考察～
- 飯田 恭子 多文化社会アメリカにおけるシュタイナー教育の受容とその実践

## 洗足学園音楽大学

- 泉山 倫子 中等教育における音楽学習の「場」の在り方  
～生徒の「思い」に着目して～

- 大八木美奈子 教会旋法の教材性  
 ~ 近代フランス音楽の視点から ~
- 佐藤 紀子 学校音楽教育における意欲的な意識と 情動 との関連性
- 田中 幸美 生涯学習社会の中で音楽の基礎的能力を育成する音楽教育の在り方  
 ~ 学校音楽教育における小アンサンブルの意義に視点を当てて ~
- 藪崎 和泉 音楽科における打楽器指導の在り方  
 ~ 打楽器の世界像の生成と自己表出に視点を当てて ~

#### 武蔵野音楽大学

- 阿部裕美子 音楽活動から生まれるコミュニケーション  
 ~ オルフ = ムジーク テラピィの「動き」から ~
- 河井 祐子 ソルフェージュ教育に関する考察  
 ~ Formation Musicale の理念を生かして ~
- 鈴木志津穂 小学生のイメージの享受における学年差・男女差に関する研究  
 ~ 音楽鑑賞からうまれる比喩表現の分析を通して ~
- 野口 真理 コミュニケーションの視点から見た我が国の音楽科教育  
 ~ イタリアの音楽教育に着目をして ~
- 王 嶺 学校における吹奏楽の指導について  
 ~ 日本のスクールバンドを中心に ~

#### 東京音楽大学

- 海野 恵子 知的障害養護学校における音楽科教育の一考察  
 ~ 療法的観点を導入した音楽活動 ~
- 滝尻 絢子 中等教育における創造的な音楽活動の在り方  
 ~ 音環境の認識をふまえて ~
- 日沖 直央 ターミナルケアにおける音楽療法  
 ~ 音楽と回想によるヒューマニスティックアプローチ ~
- 安間 良子 明治期における民間音楽教育  
 ~ 唱歌会と私立音楽学校 ~
- 佐々木寧子 鈴木米次郎の音楽教育活動  
 ~ 『簡易唱歌法』にみる試み ~
- 三浦 薫 ソルフェージュ教育におけるリズム論

#### 横浜国立大学

- 今原 亜希 アマチュアによる音楽活動についての一考察  
 ~ アマチュア・オーケストラと行政の役割を中心として ~
- 佐藤 俊直 ベートーヴェンの様式に関する一考察  
 ~ ベートーヴェンの生活環境とピアノソナタとの関わりについて ~
- 三瓶 啓子 音楽科評価におけるパラダイムの転換  
 ~ ポートフォリオ活用による評価の試み ~

- 高橋 英里 導入期のピアノ教育における子どものための教本に関する考察  
 ~ 技術の習得と音楽表現の育成をめぐる ~
- 中村 賢作 音楽における伝統についての考察  
 ~ 日本藝術の伝統と美的理念の変遷 ~
- 益子 稚加 音楽科における観点別評価についての一考察
- 山口 毅 藝術美考察の試み  
 ~ カンディンスキー藝術論とその正当性について ~

#### 新潟大学

- 杉田沙紀子 西洋音楽の学習における「構造」学習の必要性
- 春山亜紀子 “奏でる力”を養うために  
 ~ 幼児教育者養成機関における音楽学習の調査から今後の展望を探る ~

#### 上越教育大学

- 會田 容子 第3次学習指導要領期における音楽鑑賞教育
- 小山 陽 小学校音楽科の授業改善に関する研究  
 ~ 実際の授業における指導目標・内容を中心にして ~
- 公文 理恵 中学校を主とした音楽科学習指導案の研究  
 ~ 形式・書式と授業の実際との関係 ~
- 斎藤 隆 音楽教育における「リアリティ」の生成  
 ~ 現象学的アプローチによる「おんがく」の意味と「楽しさ」の本質 ~
- 中澤加奈子 音楽ジャンル嗜好形成のメカニズム  
 ~ 経験, 年齢, 性差が及ぼす影響 ~
- 村治 隆夫 小学校音楽科担当教師の意識と学びに関する一研究
- 吉川 広美 「聴く」ということを重視した小学校音楽科指導の研究
- 葭本 直樹 音楽教育における「ITO SYSTEM」の展開とその価値について  
 ~ 「人間根っ子教育」の実践を視点として ~

#### 信州大学

- 大澤 智恵 音のチャンク獲得過程としてのピアノ学習
- 斎藤しのぶ 児童期における日本の伝統音楽の要素を生かした創作活動
- 高橋 奈穂 日本のピアノ教育において近年多く用いられている導入教本の傾向
- 渡邊 恭子 日本語の特性を生かした歌唱指導法  
 ~ 基本周波数と母音明瞭度の関係から ~

#### 富山大学

- 李 楽友 中国の電子オルガン教育のカリキュラム改革に対する提案  
 ~ 電子オルガン・アンサンブルの導入を中心に ~
- シュクル・ラフマン 現代ウィグル民族の音楽状況の成り立ち
- 元田久美子 富山県の小学校におけるスクールバンド活動についての一提言  
 ~ 外部指導支援者を導入した運営案 ~

- 村上 武史 音を作り出す  
 ~ 楽器作りを通じて音楽好きの子どもを育てるために ~
- 大塚 典子 子どもの読譜に関する一考察
- 岐阜大学
- 市川 里美 ロッシーニのソプラノ・アリアにおけるヴァリアツィオーネについての一考察
- 武元理恵子 ジャズを用いた音楽科教育の可能性について  
 ~ 日本の中学校を中心にして ~
- 森下佐奈枝 『つくって表現する』活動における評価のあり方についての一考察  
 ~ 子どもの音楽的思考を手がかりにして ~」
- 静岡大学
- 西本 彩恵 中学校歌唱教材における伴奏法に関する研究
- 龍勝 芳江 インドネシアの音楽教育における一考察  
 ~ 芸能科の教科書 “ Kerajinan, Tangan & Kesenian ” を中心に ~
- 下村 明宏 シャルル・ケックラン「サクソフォンのためのエチュード」における  
 様式的特徴と技巧的課題について
- 愛知教育大学
- 浅見 浩 フラットピッチ・プロダクションの現状・原因と  
 その矯正法の有効性についての研究
- 小瀬木 崇 教授法の違いによる音楽鑑賞の学習評価  
 ~ マルチメディアの活用による<学習行動間オフタスク>の解決と  
 その効果の検証を中心として ~
- 矢崎 佑 学社・学外連携および生涯学習を視野に入れた学校吹奏楽の  
 新しいスタイルについての一考察  
 ~ 英国, スイス, ドイツ, アメリカおよび日本の制度に関する  
 調査に基づいて ~
- 近藤さやか 筋肉運動に視点をおいた金管楽奏法に関する分析的研究  
 ~ 指導の現状分析と実践的メソッド作成を中心として ~
- 田中 裕子 大会・コンクールからみた津軽三味線について
- 三重大学
- 中島 里沙 音楽が作り出す共同体の意味とそこで育つもの  
 ~ 合奏による共同体の場づくりの実践から ~
- 奈良教育大学
- 長尾 智絵 ピアノ演奏におけるミスタッチの諸問題とその背景
- 松岡 玲子 学校における「箏」指導のための導入教材の作成
- 程 松野 中国におけるピアノ教育の軌跡と現状

京都教育大学

- 劉 佳 玲 日本統治下台湾公学校における音楽教育  
～ 『公学校唱歌』 『標準唱歌学習帖』 及び指導書による考察～
- 田坂 容子 G. Verdi <<6つの口マンズ Sei Romanze>> 1845年(第2集)の  
楽曲分析による演奏解釈

滋賀大学

- 星田 茂之 音楽性と学習力の伸長を目指す指導法の研究

鳥取大学

- 佐々木 唯 幼児の遊び歌における模倣と創作  
～ 幼稚園・保育園での実態調査をもとにして～

島根大学

- 木幡 真弓 J. ハイドンのピアノ・ソナタにおける装飾音楽法  
～ 八短調, Hob. XVI/20 についての考察～
- 中村 亮 学校教育における部活動の必要性  
～ 吹奏楽活動を中心に～
- 福庭 礼子 リップスラーの効果的な指導法に関する考察
- 村尾 ゆみ 中学校の合唱指導の一考察  
～ Walter Schneider による合唱の為の発声練習より～

岡山大学

- 貝原 緩子 日本の太鼓の可能性と学校教育での取り組み  
～ 鉦留め太鼓と太鼓職人に視点をあてて～
- 清田 恭子 リズムの認知に関する研究  
～ 現代日本の子どもたちの歌唱レパートリーを中心に～
- 孟 艶 中国の子どものための創造的音楽学習に関する開発研究  
～ 漢詩を素材にした創造的音楽学習～
- 森口 麻里 「音楽づくりの学習」と指導実践に関する研究  
～ 民族音楽(西アフリカ)を中心として～

広島大学

- 石川 桂子 声楽発声における立位姿勢に関する考察  
～ アレクサンダー・テクニクの導入をふまえて～
- 井上 明子 バッハ作品のブゾーニによる編曲に関する研究  
～ 『平均律クラヴィーア曲集』を中心に～
- 伊藤 真 ドイツにおける音楽科教育の現状と課題  
～ ハンブルク州の音楽科教育プランと音楽科教員養成を中心に～
- 北澤 隆明 日本におけるブルックナー受容  
～ メディア社会と音楽の変容～
- 志師本裕子 声楽発声におけるヴィブラートの研究  
～ アリアにおける音高の相違によるヴィブラートの変化を中心として～

- 竹内奈津子 G. コンコーネの声楽練習曲に関する研究  
 ~ オペラ作品との関連性に着目して ~
- 藤田 桃子 声楽発声指導法についての一考察  
 ~ 音声治療との関連性から見た声楽発声の導入的指導法 ~
- 松永絵里子 大正時代における発声指導の変遷
- 山口大学
- 大富 智子 中学校音楽科における日本の音楽学習の方法論的研究  
 ~ 生徒が取り組みやすい尺八学習を求めて ~
- 愛媛大学
- 蘇 勳 音楽教育におけるコンピュータ活用に関する研究  
 ~ 創作学習におけるコンピュータの活用 ~
- 原田 幸枝 音楽教育における動機づけに関する一考察
- 山上 千津 障害児教育における音楽授業のあり方についての一考察  
 ~ 養護学校用音楽科教科書の教材分析を通して ~
- 福岡教育大学
- 小長野隆太 行動分析的アプローチによる吹奏楽指導に関する研究  
 ~ 指導者に求められる指揮行動の検討 ~
- 佐賀大学
- 宇野 純子 山田耕作の歌曲についての一考察
- 川口さやか 音楽教育の原理に関する一考察  
 ~ キース・スワンウィックの理論を手がかりとして ~
- 水町 愛 音楽科教育における読譜指導についての研究  
 ~ 小学校学習指導要領の変遷を中心に ~
- 宮崎 朋子 小学校における歌唱指導に関する一考察
- 森光 美樹 プラームスの作曲様式について  
 ~ ピアノ・ソナタ第1番を中心に ~
- 馬 洪 陽 中国民族楽器について  
 ~ 二胡を中心として ~
- 長崎大学
- 加藤 恵 離島における音楽教育の現状と課題についての研究  
 ~ 対馬の中学校を中心として ~
- 竹内 裕子 中学校における和楽器を活用した指導の現状
- 宮崎大学
- 竹内 新吾 音楽文化活動を伴う生涯学習に対する教師の支援  
 ~ 宮崎県・東児湯地域の音楽文化活動の試みを中心にして ~
- 福田 初美 小学校音楽科における創作と鑑賞とを結びつけた授業についての一考察  
 ~ 「現代音楽」の手法を使った創作を手がかりとして ~

## 住所・所属変更及び新入会員住所（2004年5月31日現在）

ニュースレターweb版では  
個人情報に関する記事は削除しています

### 事務局からのお知らせ 各種登録変更届はe-mailが便利です

住所、所属などの各種登録内容が変更になった方は、速やかに事務局までご通知ください。葉書やファックスでも構いませんが、転記ミスや資料の散逸を防止する意味でも、できるだけe-mailでお知らせいただくと助かります。なお、住所変更の際には、会員番号、登録地区、氏名、住所、電話番号、メールアドレス等の登録内容を「新・旧」で併記していただきますようお願いいたします。

また、各種お問い合わせもe-mailでご遠慮なくお寄せください。

e-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

\*\*\* 編集後記 \*\*\*\*\*

昨年度新たに発刊された『音楽教育実践ジャーナル』が、まださまざまな問題を抱えながらも、会員のみなさまと編集委員諸氏のご尽力の甲斐あって軌道に乗りつつあります。同じく昨年度発足した「夏期ワークショップ」も、2回目の開催にこぎつけることができました。このように学会の活動がますます多様化し、活性化しつつあるのをニュースレターの誌面からも読みとっていただけないかと思えます。第35回目を迎えることとなる日本音楽教育学会大会（武蔵野音楽大学）への参加、第34巻となる『音楽教育学』への投稿などに加え、これらの新しい企画への会員のみなさまの積極的な参加を願っております。（坪能由紀子）

最近、巷で気になる言葉がある。交渉事などで自分の意見を切り出すときに「逆に」という言葉をつける人がいる。なんだかとても論理的な思考をしているような印象を受けるが、よく聞いてみると、言ってることはそれほど「逆」じゃなかったりする。これは何かに似ていると思ったら、若い子たちの「てゆうか」と同じじゃないか！「てゆうか」世代が大人になって「逆に」を言うようになったのか、オヤジが若者の影響を受けたのかと考えると、おそらく後者だろう。う～ん、恐るべし若者文化。（北山敦康）

\*\*\*\*\*

【日本音楽教育学会役員（2002-2004年度）】

会長：村尾忠廣 副会長：平井建二・坪能由紀子

常任理事：北山敦康（事務局長），奥忍・藤沢章彦・筒石賢昭（総務），  
加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋（企画）重嶋博・杉江淑子（会計）

理事：浅井良之（北海道），丸林実千代（東北），伊藤誠・今川恭子・  
小山真紀・阪井恵・山本文茂（関東），伊野義博（北陸），南曜子（東海），  
中原昭哉・竹内俊一（近畿），野波健彦・吉富功修（中国），  
田邊隆（四国），木村次宏（九州）

【事務局住所】 ☎ 184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

【私 書 箱】 ☎ 184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

Tel/Fax : 042-381-3562 e-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmes2/index.htm>